

水底にすむものたち

わたしはひとり、暗く冷たい水底にすむものです。

あるとき、まぶしいほどのきらめきに誘われ、水面へとのぼっていきました。そこは、風の意のまま揺らぐ波と、波間に浮かんで消える泡があるばかり。まぶしい陽射しに、私の体はいつそう黒く醜くみえました。隠れるようにまた、水底へと落ちていきました。

今宵は月の光がおぼろげながら、ここまで射しています。この光に照らし出されたのは、ここにすむものでした。

足を踏みしめ、土のなかを歩むもの
懸命に土のなかを掘るもの
土に顔をふせて泣くもの
泥だらけになっても土の中をはうもの
しずかに土の中で眠るもの

ここに、一人ひたむきに生きるものたちがすむことを知りました。ここにほんとうに、美しく輝くものたちがすむことを知りました。

今宵は、この体さえ鈍く光るのが見えました。